４．在宅医療におけるカテーテル等の消毒法

【気管内吸引カテーテル】

気管内吸引カテーテルは、使い捨てが望ましい。繰り返し使用するのであれば、次の①～③の手順で消毒を行う。[1)]

① 使用後の吸引カテーテルの外表面（粘液）を、消毒用エタノールガーゼで清拭する。その後、吸引カテーテル内腔の粘液等の除去のため、滅菌精製水（注射用蒸留水）を吸引する。

② 引き続いて、８％エタノール添加0.1％ベンザルコニウム塩化物液〔ザルコニン™A液0.1（健栄）(薬価基準未収載）や、ヤクゾール™E液0.1（ヤクハン）(薬価基準収載）等〕を吸引して、カテーテル内腔に満たした後に、本液に浸漬しておく。

③ 次の使用前には、消毒薬のリンスの目的で、滅菌精製水（注射用蒸留水）を吸引する。

【間欠的自己導尿用カテーテル】

間欠的自己導尿で、再利用型のカテーテルを使用する場合には、カテーテルケースに、消毒薬を添加した潤滑・保存液を入れて、その中にカテーテルを保管する必要がある。保存用の消毒薬には、（１）院内製剤を調製する場合と、（２）市販医薬品（薬価基準未収載）がある。

（１）院内製剤の調製方法（例）

0.1％イソジン・グリセリン液[2)]

（処方）10％イソジン™液　　５mL
　　グリセリン(局方品)　適量　全量 約500mL

（調製方法および機器）
グリセリン500mLに滅菌キャップをはめ、硫酸紙をキャップにかぶせ121℃・20分間高圧蒸気滅菌する。滅菌終了後、冷却して人肌程度に温度が下がったら、クリーンベンチ内でイソジン™液を加え混和転倒する。

（適応）自己導尿用カテーテルの消毒

（使用期限）３ヶ月

ヨード禁忌の患者には使用できない。イソジン™は滅菌するとヨウ素が飛んで力価が低下するため、グリセリンのみを先に滅菌し、その後クリーンベンチ内で無菌的にイソジン™を添加する。ポビドンヨードの色が消えた場合は効果がなくなっているため、直ちに交換する。

0.02%ハイアミングリセリン液[2)]
（処方）10%ハイアミン™液　　1mL
　　グリセリン（局方品）500mL　全量 約500mL
（調製方法および機器）
グリセリンの容器に10%ハイアミン™液を加え、キャップを滅菌用赤キャップに換えて硫酸紙をかぶせ、115℃・30分間高圧蒸気滅菌する。
（適応）導尿カテーテルの保存用消毒液
（使用期限）３ヶ月

ヨード禁忌の患者に使用する。１日１回消毒液の入れ替えを行う。

（２）市販医薬品（薬価基準未収載）

（例）グリセリンBC液60%「ケンエー」（グリセリン60%）
グリセリンBC液「ヨシダ」・同「ヤクハン」（グリセリン84～87%）

これらの製剤は日局グリセリン（60～87%）に、ベンザルコニウム塩化物を0.025%添加した滅菌製剤で、自己導尿カテーテル等の潤滑・保存液として使用できる。

ただし、承認効能・効果は、「浣腸液の調剤に用いる。また、溶剤、軟膏基剤、湿潤・粘滑剤として調剤に用いる。」である。

（使用例）[3)]

① 自己導尿カテーテルケースにグリセリンBC液60%「ケンエー」を適量注入する。
② グリセリンBC液60%「ケンエー」は、１日１回定期的に交換する（推奨）。
③ 薬液を交換する際には、カテーテルケースを水道水等で洗浄し、カテーテルケース内の水分を十分に切った後、新たな薬液を注入する。

【経管栄養注入セット（容器・カテーテル）】

・使用した容器とカテーテルは食器用洗剤でよく洗い、0.01～0.02%次亜塩素酸ナトリウム液に約１時間浸漬する。その後水道水で洗い流し、よく乾燥させる。洗浄や乾燥が難しいものは水洗後、次回使用時まで0.01～0.02%次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬保管するとよい。[4)、5)]

・酢水の充填によるカテーテルの管理[5)、6)]
食酢を薄めた水（食酢：水＝１：９）30mLとシリンジを用意する。
① 白湯でフラッシング（カテーテル洗浄）をしておく。
② 薄めた酢水を、シリンジで栄養カテーテルに充填する。
③ 酢水をこぼさないようにフタを閉じ、次回の投与まで希釈した酢水を満たしておく。
④ 次回栄養剤を投与する前に、白湯でフラッシングする。

注）酢水はカテーテルのフラッシングに使わない。栄養剤と酢水が混ざると、蛋白質がカード化を起こし、カテーテルが詰まる原因になる。